

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 008	提案機関名 畜産課
要望問題名 分娩監視、発情発見装置の有効性の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 酪農及び肉用牛繁殖経営において、分娩間近の牛がいると生産者は「いつ分娩するのか」、「無事生まれるか」など夜通しで準備し、神経と労力を使っている。また、近年、発情の微弱、受胎率低下など繁殖成績の低下が問題となっている。 最近、県内でも分娩監視、発情発見装置（モバイル牛温恵；NTT・全農）が利用され始めている。 そこで、モバイル牛温恵を用いた肉用牛繁殖経営及び酪農における分娩監視、発情発見装置の有効性の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	同様の技術については、畜産センサ研究コンソーシアム（代表研究機関：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）動物衛生研究所）がSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)にて「生体センシング技術を活用した次世代精密家畜個体管理システム」を提案し、繁殖成績の向上や栄養管理の高度化のための次世代精密家畜個体管理システムの開発を行う予定です。そこで、当所としても情報収集に努め、必要に応じ課題化を検討します。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			